

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第203版

理念と実践で 絆を結びます

竹取新聞は、「子ども第一義」の理念のもと、皆様の保育に少しでもお役に立てたらとの思いでお届けしている新聞です。お客様の素敵な保育実践はもちろんな、マネジメントや働き方、子育てや暮らしのあり方、社内の取り組みやウェブ・IT支援まで、カグヤの実践を発信しています。明日から真似できることや、挑戦する勇気につながることを大切に発行しています。

竹取新聞に関する皆様のご意見や
ご要望をお聞かせください！

ご意見箱



竹取新聞以外のご意見も
お待ちしております。OK！
お電話やメールでもOK！

03-3518-6217
info@caguya.co.jp



カグヤの一元対話も、安心して対話できる環境や、弱さを出し合い、助け合い、学び合う環境を目指して取り組んでいます。

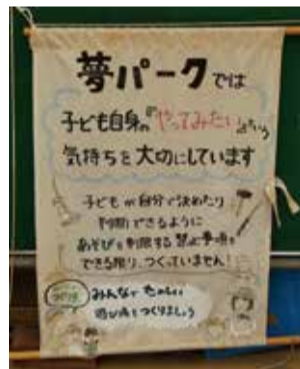
子ども主体の社会は、 足元から始まる

今の時代、生きづらさを抱えているのは、子どもたちだけではないのかもしれない。私たち大人もまた、地域や学校、職場の中で、人との関係を築く機会が少しずつ希薄になっているように感じます。

これは個人の問題にとどまらず、人と人との関係性や支え合いの土台が揺らぎはじめているという、社会全体の課題とも言えそうです。だからこそ、安心していられる居場所を土台に、人が互いに学び合い、支え合い、自分の役割を見出していける関係や場を、どう育み直していくかが問われているように思います。

成長とは、外から一方的に与えるものではなく、信頼できる関係と適切な環境の中で引き出されていくものなのだと思います。

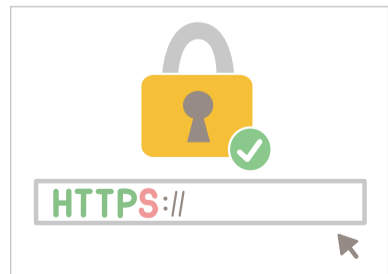
そして、この原理は子どもだけでなく、大人にも当てはまるのではないのでしょうか。子ども主体の社会を実現しようとするならば、子どもを取り巻く家庭や、私たち自身が働く組織もまた、安心して対話でき、弱さを出し合い、学び合い、挑戦し、支え合える場であることが大切です。



皆さんと一緒に学びに行ってみたいですね！（夢バ訪問時撮影）

私たちはカグヤも、自分たちの足元にある関係や組織文化を見つめ直し、居場所、対話、学び合い、助け合い、当事者主体をどう実現していけるのかを探求していきます。

それは単なる社内改善にとどまらず、子ども主体の社会を支える大人の文化を、自ら実践を通して形にしていこうという第一歩は、遠くの理想からではなく、家庭や職場という最も身近な場所から始まるのだと思います。（眞田海）



園の大切な情報を守り、安全に届けるためにSSL化は必須です。

SSL化の重要性

〜セキュリティと信頼〜

ホームページのSSL化（https接続）は、現在の園ウェブサイト運営において、単なる推奨事項ではなく、信頼と安全を担保するために欠かせない基盤となっています。かつては個人情報を入力するページのみ対応で十分とされていましたが、現在は全ページを暗号化する「常時SSL化」が世界的な主流であり、インターネットの標準規格となっています。

また、グーグル等の検索エンジンはSSL化を重視しており、未対応のサイトは検索結果で不利になる可能性があります。さらに、非対応サイトにはブラウザ上で「保護されていない通信」という警告が表示されるため、閲覧する保護者に強い不安を与え、園への信頼感を損なう要因にもなりかねません。アドレスバーの「鍵マーク」は、サイトが安全に守られている証です。大切な園の情報を正しく届け、保護者の皆様に安心してご覧いただくために、現在の対応状況や設定の流れについて、まずはお気軽にお問い合わせください。

（松田恵美子）

今月のカグヤ社内「一元対話」テーマ

- 席替えテーマ：「ここ最近で新しい洋服を買った順」
（新しい個性や一面が知れるようなテーマ設定がポイント！）
- 自由テーマ：「やる気を出すときの特效薬」（物、こと、人など）
（オープンで本心本音が出しやすいようなテーマ設定がポイント！）



一元対話は、園が主体となって「聴く文化」や風通しのよい組織風土を育てていく実践です。カグヤは、その取り組みが園に根づくよう伴走しています。ここでは毎月、カグヤで実践された一元対話のテーマをご紹介します。導入いただいている園の聴福人さんがテーマを設定する際の参考にできれば幸いです。



一元対話の情報は
こちらから

一元対話にご興味のある方はお問い合わせください！

旬のもの

6月は梅雨入りの季節ですね。梅雨といえば「梅仕事」をされている方も多いことと思います。私自身も地域のお年寄りに教わってからは毎年この時期になると梅シロップや梅干しなどをつくっています。



今年はたくさんの梅が採れました！

他にもこの時期おすすめなのが、赤しそを使った「しそジュース」。こちらはしそを煮出してこした液に砂糖と酢を入れてできるもので、煮沸消毒した瓶に入れ密閉して冷蔵庫に入れると6か月程もちます。色鮮やかで味もさっぱり爽やかなおいしさですし、赤しその葉は漢方薬としても用いられるほど様々な薬効があり、栄養価の高い成分を含んでいるそうなので、疲労回復力や解毒効果、食欲促進の効果もあって、夏バテ防止にはピッタリです。そう考えると、旬のものはおいしただけでなく、その時期に身体が必要としているものを補ってくれる優れものですね。



旬のしそジュース、園やご家庭でも作ってみてはいかがでしょうか。
作り方はこちらのQRコードからご覧いただけます。



の変化や、味わったときの感覚に意識を向けたりとすることで、その年ごとの季節をより深く感じられるかと思えます。便利な時代だからこそ、いつでも何でも手に入る環境に流されすぎず、「カレンダー上の旬」だけに頼るのではなく、あえて「今、実際においしいもの」を選ぶことも大切にしていきたいものですね。

旬のものを選ぶという行為は単なる食事の選択ではなく、季節を感じながら暮らすための一つの智慧ともいえるでしょう。梅やしそなどこの時期ならではのものを取り入れることで、ジメジメした梅雨を乗り切っていくと共に、ありがたい自然の恵みや先人の智慧を子どもたちにも伝承していけたらと思います。
（宮前奈々子）

一期一会庵

安心の場づくり

「文化」という言葉を辞書で引くと、「人間が社会生活を営む中で作り出し、伝承してきた生活様式や価値観、知識、技術などの総体」と書かれています。むかしから文化は人の心を耕す大切な智慧のように思います。

そして文化づくりこそ人間教育の土台になっているといえます。この文化づくりは目には見えなくても、家庭や会社、保育園の組織でも、日々の営みの中で連綿と今も続いているように思います。文化づくりがあるからこそ人間性や人間らしさも育っていきます。

そう考えると、文化づくりに取り組むときに最も重要なのは、「何のために生きるのか」「何のために働くのか」という目的を大切にしながら日々を積み重ねることではないかと思えます。初心を忘れないようにすることで、人間は心の土台を耕すことになるからです。
これを二宮尊徳は「心田開発」と

いい、人々の心の荒廃を取り除くためにその生涯を文化づくりに捧げました。

人間は、忙しくなり効率優先で便利な環境に吞まれると手段と目的を入れ替えてしまうことがあります。忙しいという字も、心を亡くすと書きます。手段が目的化したときに、人は忙しさに追われる、ということでしょう。

だからこそ日々の暮らしの中で初心を忘れないための振り返りや、五感を用いる生活、大人も子どもも主体的に自然とのつながりを感じながら自分の役割や存在の意味を実感する「場」が必要になってきます。

人間は環境の影響を受ける生き物だからこそ、個人で頑張らせるのではなく、「初心を忘れず、忙しさに流されないような場」を用意する方が保育環境も調ってくるように私は思います。

人間は文化という土台が揺るがななく盤石になっているときにこそ、もっとも安心するように感じます。安心してはじめて人は育ちます。人が育つ環境は安心の場づくりからだと思います。
カグヤはこれからも、園の見守る環境を調える支援を続けていきたいと思っています。
（野見山広明）

編集後記



新聞をお届けする前に行う「校正会」も一緒に！

今月も竹取新聞をご覧いただきありがとうございます。今月号からは、新たにウェブ事業担当のクルーも加わり、一緒に記事をお届けすることになりました。社内でも異なる分野のメンバーが力を合わせることで、新たな発見や学びが生まれています。そんな

な気づきも交えながら、これからも皆さまのお仕事や暮らしのお役に立てる内容をお届けしていければと思います。
引き続き、竹取新聞をお楽しみいただけましたら幸いです。梅雨の季節、どうぞご自愛ください。
（宮前奈々子）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

カグヤ公式 Instagram Follow us!

